

## 人権課題にかかわる幼・小それぞれの取組のご紹介



先週 19 日(金)、日程的には偶然だったのですが、幼稚園(さくら組・かもめ組)では「手話体験」、小学校(5 年生)では「デフサッカー体験」が、ほぼ同じ時間帯に行われました。

幼稚園には、品川区聴覚障害者協会から、講師に長田章子さんをはじめ、通訳の方を含め 4 名の方々においでいただきました。あいさつや、色、食べ物(ミカンやバナナ)、好き・嫌いの表現の仕方を教えていただき、みんなで体験しました。いろいろ教えていただいたお礼に、さくら組さんは「しゅわしゅわデフリンピック」のダンス、かもめ組さんは「ありがとうのはな」を手話付きでお送りするなど交流を楽しみました。

5 年生のデフサッカーは、元デフサッカー代表監督で、デフサッカーの普及活動をしていらっしゃる植松隼人さんや、デフサッカー女子日本代表の國島佳純選手など、こちらも 4 名の方々においでいただき、手の合図で指示をするドリブルゲームや、選手のみなさんとのミニゲーム体験などを行いました。(女子チームは、デフリンピックで銀メダルを獲得しました！)

聞こえないということは、見て分かることではないので、周囲の人から「無視をされた」という誤解を受けやすいという実体験に基づいた苦労話を伺い、確かにその通りだなと感じました。「手話が分かるようになるよりも、耳の不自由な人は結構身近にいて、そのような人たちは手話を使っていることを、当たり前のこととして受け入れられるようになってほしい」「子どもたちが、そのように成長できるよう、こんな取り組みを続けてほしい」まさに、その通りです。「デフリンピックの年だから」でなく、一つのテーマとして、今後も取り入れていきたいと思えます。